㈤ 実践例

紹介する実践例は、国際化の単元全体の導入部で行った授業の教材資料（資料4）と指導案（資料5）である。

「総合社会」の教材には、準教科書として「社会学入門」（有斐閣新書）を用いているが、適切な教材がない場合には、学習プリント（資料4）を作成して使用している。

この実践例の学習指導の要点は、国家中心に国際化を考えている生徒の意識を問題化し、国際化は国家以外の様々な社会集団のレベルでもとらえられるべきであることを社会学的な視点を導入して理解させることである。

そして次に展開される、異なる社会集団（社会規範）に所属する日本人と外国人がどのように出会ってきたかという歴史的な観点からの学習指導も併せて、国際化への態度決定を求められている様々な社会集団の主体としての自覚を高めることである。

資料4　「総合社会」学習プリントの例

〈総合社会資料〉　国際化の主体　（その1）

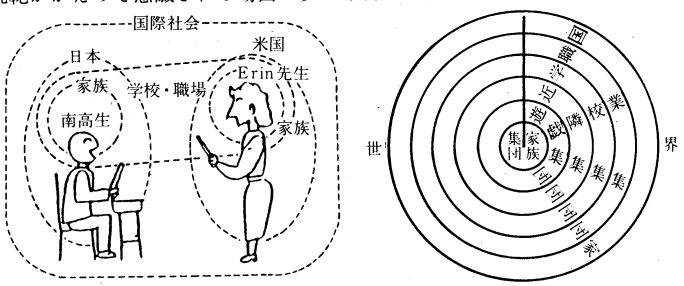
1．初めに（略）

2．社会集団の一員としての出会い

人と人との出会いは、互いの持つ社会的自己を仲立ちとしてなされると言える。下図のように、我々はそれぞれの社会集団に属し、それぞれの集団に応じた社会規範（文化）を持った人間として出会うのである。

……（中　略）……

そこで今日の国際化社会にあっては、自分が所属する社会集団とその社会規範がかえって意識される場面が多いと言える。



（注）　上図の同心円は、パーソナリティーの広がりや社会集団への帰属を意味する。

〈課題1〉互いの出会いが最も困難な出会いを考えてみよう。

〈課題2〉日本人同士でも、テレビの「絆」の主人公のように、出会いがうまく行かないことがある。なぜうまく行かないのか。

資料5　実践例の学習指導案

教科・科目	専門科目	総合社会	担当者	阿部正春
クラス	2年1組（54名）		場所	視聴覚室
本時の主題	「外国人同士が互いを理解して出会うことはなぜ困難か。」			
本時の目標	異なった社会規範を持つ、異なった社会集団の一員として出会うことが、互いの理解を困難にする主因であることを理解する。			

過程	学習内容	学習活動	時間	指導上の留意点
導入	国際化の主体についてのアンケート	国際化の主体についてのアンケート結果の特徴を班ごとに検討し、発表する。	7分	学習班6名ごとに着席、生徒の理解・意識を明確にし、問題点を指摘する。
展開	異なる社会集団の一員としての出会い	学習プリントを読む。 教師の解説を聞く。	2分 3分	●パーソナリティーの構成図を2枚重ね、その重なりを変化させて出会いの親疎をイメージさせる。(O.H.P使用) ●討議の進まない班に加わり問題点を意識させる。
		学習プリント中の各課題を班ごとに検討する。	10分	●課題2については必要に応じ、ビデオのダイジェスト版を見せる。
	外国人同士の理解が困難な理由	検討の結果を発表し合い、その妥当性を互いに評価し問題点を指摘する。	15分	●親密な出会いになるほど基礎的集団ばかりか機能的集団の社会規範を理解することが重要になることを理解させる。
		発表内容に対する教師の講評を聞く、板書を書き取り問題点を整理する。	10分	
まとめ	次時の予告	次時の学習テーマの説明を聞き、宿題を理解する。	3分	日本史上の著名な外国人を調べるよう指示する。

㈥ 今後の課題

このような学習指導の成果については、まだ国際化の学習指導が継続中であるため判断を控えるが、「総合化が実現すべきであるのは生徒の中であって、個々の授業や単元構成の上なのではない」（前掲論文）という観点に立った評価方法の開発など、今後の研究が必要である。

その他、国際化の学習指導に関しては、「総合社会」をはじめとする専門科目と「現代社会」との指導内容の構造化を図り、さらに英語科との連携を進めるなど研究課題は山積している。

（注1）小西正雄「社会科実践におけ